

大阪医科大学学報

第93号 平成24年8月
インターネット版



枇杷の実

◆目

新任教授紹介	2
学位記授与式	4
受賞等について	5
永年勤続表彰	6
平成23年度事業報告と決算について	9
中山国際医学医療交流センター	12
医学会春季学術講演会・学内行事	14
歴史資料館	16
市民公開講座	17
寄付金報告	18

次◆

研究助成金について	20
主要会議報告	22
大学安全対策室	26
医療安全対策室	27
感染対策室	28
緩和ケア研修会報告	29
保健管理室からのお知らせ	31
行事日程・俳句	32
日本生殖免疫学会総会 学術集会	33

新任教授紹介

新任教授のご紹介—医学部 整形外科学—

根尾 昌志 教授

平成24年7月1日付で生体管理再建医学講座 整形外科学を担当させていただくことになりました。昭和58年に京都大学を卒業後、同整形外科学教室に入局、松江赤十字病院、静岡県立総合病院、日赤和歌山医療センターなどで整形外科全般の臨床経験を積み、大学院、留学では人工骨の基礎研究に携わりました。平成10年京都大学に戻ってからは、脊椎外科学を専門として脊椎脊髄疾患ほぼ全般を取り扱い、中でも、手術リスクが高いため一般病院では行われることの少なかった頸椎インストゥルメンテーション手術を数多く行い、その安全性を追求して参りました。また、生体活性（骨と結合する）チタンの開発と臨床応用を中心に、人工材料研究も続行してきました。



最近では、生命寿命よりも健康寿命が重要視されるようになり、運動器を取り扱う整形外科は、歳を取っても自分で歩き身の回りのことができる、という最低限のADLを保つ上で極めて重要な位置を占めています。また、80歳を超えてもゴルフをしたり、海外旅行に行ったりという、高いQOLを保つことにも大きな役割を担っています。高度の医療レベルでこれらのニーズに応えられるよう尽力する所存でございますので、よろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

【略 歴】

昭和58年3月	京都大学医学部 卒業	平成10年10月	京都大学整形外科学 助手
平成5年3月	京都大学大学院医学研究科博士課程(外科系専攻)修了	平成14年4月	京都大学整形外科学 講師
平成6年1月	ベルリン自由大学ベンジャミン・フランクリン病院留学	平成20年4月	京都大学整形外科学 准教授
		平成24年7月	大阪医科大学整形外科学 教授



新任教授のご紹介—看護学部 内科学—

瀧井 道明 教授

このたび、開設3年目の看護学部の専門基礎科目の内科学担当教授に着任させて頂きました。卒後の25年間、入院・外来診療、基礎実験研究、臨床研究、学生教育、医局業務の各領域に携わらせて頂き、種々の経験を積むことができ数々の教訓も得ました。今回若輩ながらも教授職の機会を得ましたことは大変光栄に感じ身の引き締まる思いです。着任後数ヶ月ですが、看護学部内の雰囲気として諸先生方の教育や研究に対する熱意、活気を感じているところです。実践的な臨床ケアを学んでいく看護学生さんへ、その基盤となる医学としての内科学の知識を伝授していくことの重責を痛感しております。将来の看護医療を担う新しい人材育成に携われることは喜びとするところです。また、長期的な展望に立った新しい研究も模索していきたいと考えております。皆様方のご協力を賜り、職責を全うしていけるように励む所存でありますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



【略 歴】

昭和62年3月	大阪医科大学卒業	平成14年11月	大阪医科大学第二内科学教室学内講師
昭和62年6月	大阪医科大学附属病院第二内科臨床研修医	平成19年4月	大阪医科大学第二内科学教室講師
平成3年7月	大阪医科大学第二内科学教室専攻医	平成23年11月	大阪医科大学第二内科学教室診療准教授
平成10年4～9月	医仁会武田総合病院消化器科医長	平成24年4月	大阪医科大学看護学部教授(内科学)
平成11年4月	大阪医科大学第二内科学教室助手		

新任教授のご紹介—看護学部 母性看護学・助産学— 佐々木 綾子 教授

平成24年4月1日付で、看護学部 母性看護学・助産学領域教授として着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。「母性看護学」「助産学」関連の科目を担当しております。私は、総合病院の産科病棟で12年間助産師として勤務した後、福井大学医学部看護学科において、13年間の看護師・助産師教育などを経て現在に至っております。ご存じのように、わが国では産科医療を取り巻く様々な問題が山積している中、質の高い看護職の養成は重要な課題となっています。本学でも、社会状況の変化や教育改革の動向を受け、特に看護師・助産師教育の推進・充実のため、一層の努力を積み重ねていきたいと考えています。



着任以来、週末は福井と大阪をサンダーバードで往復する単身赴任生活にも、大分慣れてまいりました。また、大阪では、福井のように冬場の大雪や吹雪の心配がいらぬということで、今から冬の到来を楽しみにしております。

学年進行中である看護学部の重要な時期に着任し、恵まれた環境の下、看護学教育に携われることをとても光栄に思っております。その機会をいただきましたことに感謝しつつ、これまでの臨床・教育経験を生かし、看護実践能力を有する人材の育成と看護学部の発展に、微力ながら貢献できるよう尽力してまいりたいと考えています。

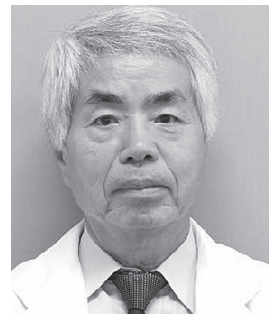
【略 歴】

昭和56年3月：高知女子大学家政学部衛生看護学科卒業	平成13年4月：福井医科大学医学部看護学科臨床看護学講座母子看護学・助産学領域助教授
昭和57年3月：京都大学医療技術短期大学部助産学特別専攻修了	平成14年3月：英国ロンドン大学King's College 文部科学省在外研究員(短期)
昭和57年4月：滋賀医科大学医学部附属病院助産師	平成15年4月：福井大学医学部(大学統合)臨床看護学講座母子看護学・助産学領域助教授
昭和58年5月～平成6年3月 福井赤十字病院助産師	平成20年3月：大阪府立大学大学院博士後期課程修了(看護学)
平成8年3月：福井大学大学院教育学研究科修士課程修了(教育学)	
平成11年4月：福井医科大学医学部看護学科臨床看護学講座母子看護学・助産学領域講師	



新任教授のご紹介—大学院医学研究科— 吉田 龍太郎 教授

このたび、4月1日付で大学院医学研究科教授を拝命いたしました。平成9年12月に生理学講座講師としてお世話になって以来、助教授、研究教授、専門教授として、生理学、免疫学の講義や実習等、学部学生の教育を担当し、約20名の院生の研究を指導してきました。その間、平成12年11月30日に、医師および歯科医師の卒後臨床研修必修化を規定した「医療法等の一部を改正する法律案」が国会で可決、成立し、平成16年4月から実施されております。「診療に従事しようとする医師は、2年以上、医学を履修する課程を置く大学に附属する病院又は厚生労働大臣の指定する病院において、臨床研修を受けなければならない」ことになり、大学を取り巻く医療と研究のあり方が大きく変わりました。



昭和34年、本学に大学院医学研究科が設置されて以来、大学院での教育と研究はすでに50余年の歴史があります。その歴史を踏まえながら、本学に相応しい大学院のあり方を提示するために、大学院専任教員として最善を尽くしたいと考えております。ご指導ご鞭撻のほど、宜しく願い申し上げます。

新任教授紹介 学位記授与式

新任教授のご紹介—医学部 化学・生体分子学—

林 秀行 教授

本年4月1日をもって、化学・生体分子学教室の教授に就任いたしました。私は生化学教室在任中から化学教育に関わり、また生化学と化学の境界領域の研究を行って参りましたが、このたび本格的に化学に軸足を移して教育・研究に携わることになりました。



医学部における総合教育のあり方については従来から論じられてきましたが、大学教育の大綱化直後の行きすぎた風潮を克服し、ようやく冷静な議論がなされる環境が整いつつあります。多くの大学で総合教育の重要性が見直されつつあります。その中で、化学教育は独自の重要性を持っています。生命は化学的に美しい存在であることを理解することは、医学を学び、また将来医学研究に携わる上で大きな意義を有しています。また、このことは同時に、化学教育が準備教育のみならず教養教育としての側面を持っていることをも意味しております。

この化学教育、そして化学の持つ重要性が学生、ひいては教員にも広く理解されるよう、教育・研究に邁進して行きたいと思っております。

【略 歴】	
昭和57年 3月：大阪大学医学部卒業	昭和63年 2月：大阪医科大学講師(医化学)
昭和61年 3月：大阪大学大学院医学研究科(生理系)博士課程修了	平成 6年 2月：大阪医科大学助教授(医化学)
昭和61年 4月：日本学術振興会特別研究員	平成16年 4月：大阪医科大学教授(医化学；後に生化学に改称)
昭和62年 4月：大阪大学助手(医学部薬理学)	平成23年 4月：大阪医科大学教授(化学・生体分子学)

平成24年度 第I回 学位記授与式

日 時： 平成24年7月23日(月)14時～
場 所： 新講義実習棟4階 特別応接室
大学院医学研究科修了者(甲) …… 2名



番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第914号	江城 久子	白血球除去療法(LCAP)による関節リウマチ患者血清蛋白質の変化 (Changes of protein expression in the serum derived from patients with rheumatoid arthritis by leukocytapheresis(LCAP) treatment)
甲第915号	市山 聖子 【学位記名： 中山 聖子】	Immunohistological diagnosis of plasma cell myeloma based on the cytoplasmic kappa/lambda ratio of CD138-positive plasma cells (CD138陽性形質細胞の細胞質内kappa/lambda比解析に基づく多発性骨髄腫の免疫組織学的診断)

受賞等について

厚生労働大臣功績賞受賞

衛生学・公衆衛生学教室Ⅰ・Ⅱ 河野 公一 教授

平成24年7月2日（月）、東京都千代田区の東京會館にて、平成24年度「安全衛生に係る優良事業場、団体又は功労者に対する厚生労働大臣表彰」が授与されました。



厚生労働大臣功績賞を受賞して



衛生学・公衆衛生学教室Ⅰ・Ⅱ 河野 公一

この度、これまでの厚生労働行政への貢献に対して厚生労働大臣功績賞を受賞しました。昨年の緑十字賞に続いての受賞であり感慨もひとしおです。これらの受賞は本学・教室の諸先生をはじめ関係各位のご指導・ご助力のたまものと感謝申し上げます。



“We are up for self-care” Award 最優秀賞受賞

附属病院看護部 慢性疾患看護専門看護師
添田 百合子 看護師長

平成24年5月17日（木）、第55回日本糖尿病学会学術集会に合わせて表彰式が行われました。（前列中央が添田師長）

※ “We are up for self-care” Awardは、糖尿病治療研究会およびアポットジャパン株式会社により、糖尿病ケアに携わる医療スタッフのさらなる知識・技術の向上を図ることを目的として創設されたもので、医療スタッフが糖尿病患者のセルフケアを支援する活動を評価する賞です。



平成23年度 大阪医科大学附属病院長賞受賞

附属病院看護部 リエゾン精神看護専門看護師
61病棟 宮田 郁 看護師

平成24年3月27日（火）、臨床第一講堂での合同会議にて、表彰されました。

リエゾン精神看護専門看護師として平成23年度に再入職後、院内を横断的に活動し、精神的苦痛を抱えた身体疾患の患者様やその後家族への精神的サポートをする役割を担い、本院のチーム医療への大きな貢献をしたことが評価されました。



永年勤続表彰

平成24年度 永年勤続表彰

日 時：平成24年6月4日（月）10時～
35年勤続表彰 12名
20年勤続表彰 11名
場 所：総合研究棟12階 第2会議室

勤続35年

伊東 重徳（化学・生体分子学・准教授）
緒方 貴広（中央放射線部・主任）
金森ひろ子（診療情報管理室・課長代理）
荻谷 利夫（施設課（電気室）・課長代理）
芝山 雄老（病理学・教授）
堤 克彦（施設課（ボイラー室）・課長代理）
新居扶美枝（病院看護部・看護師）

蜂須賀弘美（診療情報管理室・副主任）
藤永 孝（卒後臨床研修センター・課長）
村上 澄子（物流センター・センター長）
安原久仁子（病院看護部・看護師長）
山本紀美子（会計課・事務員）

（50音順）



勤続35年表彰者

勤続35年表彰を受けて

診療情報管理室 課長代理 金森ひろ子

この度12名の職員が勤続35年の表彰を受けました。同じ部署の蜂須賀と共に受賞できた事は大変光栄なことです。

さて、現在、私どもが勤務している診療情報管理室は、昭和45年に公衆衛生学教室の緒方昭先生や山本和子先生により開設された病歴室が起源であり、先生方が退職後は一時期、医事課の管轄となりましたが、平成16年に診療支援部門、診療情報管理室として位置づけられ現在に至っています。病歴室は院内で何度か引越の後、平成21年に現在の6号館地下室へ落ち着きました。そして、引越の度にカルテ保管用の書架が増加し、現在では6号館地下室の倉庫には収まりきれず、群馬県に外部倉庫を借りなければならないほどです。

私が病歴室へ配属されて間もない頃、当時、業務の指導を受けていた緒方先生から、まだ珍しかった診療情報管理士の資格を取るよう勧められ、苦勞して取得したことが思い出されます。また、病歴室が図書館と合併するかもしれないというお話があり、慌てて図書館司書の資格も取得しましたが、結局

は実現しませんでしたので、残念ながら、これは余り役に立ちませんでした。

当時は、診療情報を管理するという発想が殆どなく、病院内で自身の仕事について説明を行っても、「診療情報管理士？何それ？どんな仕事？」と理解していただけることは殆どありませんでした。そのような状況の中で患者データの登録を昭和53年より開始しました。当時の入力カナ文字とアルファベットで、患者IDは生年月日を元にしたID番号でした。その後、昭和60年に病院と共通のID番号でPCへの入力が始まりましたが、このようなアナログの時代から現在まで362,038件の患者データを登録しています。

診療情報管理室にとって転機となりましたのは、平成16年8月1日に診療録管理体制加算の施設基準の取得、特定機能病院で先行開始されたDPCの試行、病院機能評価Version4.0の受審でした。

平成16年5月に医事課病歴室から診療情報管理室として独立しました。初代室長として精神神経科米田博教授を迎えDPCの試行を開始、また、同年に病院機能評価Version4.0を受審しました。DPCの説明では、医事課職員の方々と全診療科を回りながら、機能評価に必須であった入院、外来カルテの様式の統一を診療科の先生方のご協力を得て何とか間に合わせ、あわせて、病院機能評価受審のために必要な文書作りや診療録サマリー完成の督促を行いました。

平成22年度より室長がリハビリテーション科佐浦隆一教授に引き継がれ、病院機能評価Version6.0を受審しましたが、診療録をチェックしサマリー完成率を少しでも向上させるために、佐浦先生が全ての病棟と一緒に回って下さったことは、昨日のここのように感じております。また、平成24年1月に行われたオーダリングシステムの更改に向けての準備段階から診療情報の効率的な活用について適切な助言を受けましたが、オーダリングシステム更改後は多くの診療科の先生方から、診療情報の活用が容易になったとお言葉も頂戴しました。

平成24年度からは、以前より副室長として実務の相談に載って頂いていた医療情報部の大坂直文先生が室長に就任、糖尿病代謝・内分泌内科の谷本啓爾先生を副室長に迎えて、新しい体制で現在に至っています。

近年は診療情報管理室の業務も多岐にわたり、診療報酬とリンクしたクリニカルパスの作成支援、地域連携のためのクリニカルパスの作成支援、より良い診療録作成のためのオーディット、また、診療情報の多施設での共有、利用を目的としたNational Clinical Database 事業への参画も病院長の承認を得て開始し、消化器外科の先生方とともに手術・治療情報の登録を行っています。さらに今年度は、卒後臨床研修医の入職時オリエンテーションで副室長の谷本先生にご指導いただき、これから臨床現場にて研修が始まる先生方に、診療録を正しく記載するための演習も行いました。さらに、平成24年度以降の診療支援部門の新たな業務として、少しでも多忙な先生方の負担軽減のための支援ができればという想いから診断書の作成補助業務を開始しました。

先日、大学の歴史資料館では、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展が開催されていましたが、私は時計台のある建物を覚えている数少ない職員の一人なのだと、感慨深く展覧会を拝見しました。絵画として残されている旧大学本館内の研究室にはよく参りました。私は昔の大阪医科大学を知る数少ない一人ですが、大阪医科大学の歴史の中に埋もれてしまうのではなく、職員として大阪医科大学の歴史をこれからも作っていくために、少しでもお役に立てるように頑張りたいと思っています。

最後になりましたが、診療支援部門でありながら、皆様の暖かいご支援に恵まれ、ここまで来ることができました。心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

永年勤続表彰

勤続20年

浅島 有紀 (病院看護部・看護師主任)
有田 由美 (病院看護部・看護師主任)
井生 敬三 (病院看護部・看護補助)
稲田 幸子 (栄養課・調理師)
岩崎 孝敏 (臨床工学室・課長補佐)
釘宮 幾子 (栄養課・調理師)

寺崎 文生 (教育機構・准教授)
中川 和美 (医事課・主任)
松本 洋一 (中央放射線部・主事)
村上 和枝 (医事課・事務員)
森本真佐子 (栄養課・課長)

(50音順)



勤続20年表彰者

「想い」

教育機構 准教授 寺崎文生

私は1982年(昭和57年)に本学を卒業して、第三内科学教室に入局、2年間の臨床研修の後、京都桂病院へ1年間出向致しました。大学院、米国テキサス大学留学を経て、1992年に帰学して以来20年が経過したということになります。第三内科(循環器内科)では、一貫して心筋症、心不全の病因・病態に関する臨床、研究の仕事をさせていただきました。昨年10月に教育機構に異動して現在に至っております。これまで20年間(卒後30年間)、上司、同僚、後輩、コメディカルスタッフ、多くの皆様に大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

自然科学、分子生物学、基礎医学などの進歩は、再生医療などに見られるようにとてつもない速さであり、それに伴って医学生や医師が学ばねばならない知識や技術は膨大なものになっています。さらに、医学・生物学領域だけにとらわれず、工学系・薬学系など他の分野との交流も欠かせません。医学教育はこのような学術的、科学的状況に対応していかなければなりません。一方で、久しく指摘されているように、医師としての品格やコミュニケーション能力、患者さんの心情と共感できる心を涵養することも医学教育の極めて重要な部分です。NHK朝ドラの「梅ちゃん先生」に心を動かされるのは私一人ではないと思います。

本学においては、諸先輩や事務系スタッフの皆様のご尽力で教育に関するソフトおよびハード環境が良好な状態で整っています。私は内科学教室に在籍中、教育主任や教育センター教員として医学教育に携わって参りました。過去20年間の経験を生かしながら、医学教育のグローバル化、シームレス化に対応すべく、本学の卒前・卒後教育に貢献したいと考えております。今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年度 事業報告と決算について

1 活動の概況

本法人の目的は、寄附行為第3条の通り「基本教育法及び学校教育法に従い、医科大学その他の教育施設を設置し、国際的視野に立った教育・研究及び良質な医療の実践をとおして人類の福祉と文化の発展に貢献する人材を育成する」ことであり、平成23年度も本法人はその目的に沿って事業を行った。

平成23年度の本法人における大原則の事業活動方針は、平成22年度に引き続き、理事長の所信表明にある『財政基盤の強化』であり、「あらゆる手段を講じて財政の磐石化を図ること」を念頭に置いて、財政緊縮を基盤に据え事業を遂行した。周知のとおり、ここ数年の本法人の財政事情は大変厳しい状況に置かれており、帰属収支のマイナスを抑え、財政基盤の磐石化を何としても達成すべく、あらゆる分野において、資金使途には慎重を期し、業務遂行上必要不可欠な最低限度の投資のみを行った。

他方、平成22年度の診療報酬改定は、平成23年度も本学の病院経営には有利に働き、結果的に平成22年度をかなり上回る収支改善実績を果たせ、法人全体としても満足できる決算となった。「帰属収支差額と次年度繰越資金の目標額確保」という当初の目標を達成できた。この改善の背景には、平成22年度に立ち上がった理事会直轄の「病院経営改善委員会」の啓発により、本学の収支改善には「病院の収益確保および業務管理の強化が極めて大切である」ことが、改めて全学的に認識されたことにある。収支改善を目指して様々な対策や立案が本委員会で議論され、全診療科にヒアリングを行い、活動方針を定めたことは、病院経営の方向性を明らかにする上で意義深いものであった。

その他に、前年度掲げた事業計画達成のための方針については、以下の項目があり、いずれも相応の成果を挙げることができた。

まず、支出の削減。教育研究経費ならびに管理経費の合計で前期比4億4千万円弱の経費削減ができ、医療収入が増収した上でこれらの経費を削減できた意味は大きい。特に医療経費率の低減は、医材費の削減、効果的な医療機器への投資、競争比較による外部委託費削減など、色々な手段を駆使して経費の削減を実現したものである。

次に、本法人の建物将来整備計画の構想を描く第一歩も踏み出した。かねてより都市整備計画に従い、一部建物の新築、また大幅な病棟の改修工事を行ってきた。しかし、本法人の建物が既存病棟を中心に築後30～40年経つことを勘案すると、先の震災などの経験を加味して「中長期的な観点の建物整備計画」を立案することが必要不可欠である。特に、高機能な役割を果たす手術室、病室の一部など超急性期および急性期疾患に対応できる新棟が必要であると考えられ、新棟建築に関する調査を行った。時期の特定は難しいが、条件が整い次第建替えを実施できる準備を行うべく、手術棟設置場所に関する配置図の作成に着手した。

また、学校法人大阪薬科大学との法人合併交渉においても、本学と大阪薬科大学の存続を前提とした法人合併基本合意書に調印した。その後、両法人による合併協議会を設置して、合併期日等の詳細について検討している。合併の目的は、本学と大阪薬科大学の連携を一層強化し、将来的に教育・研究・医療の総合的な推進を図ると共に、経営基盤の強化に資することにあり、合併の大前提となる財務システムの構築について両法人財務部間で検討を重ねている。

さて、昨年3月に発生した大震災の影響は、本学の平成23年度の事業活動に直ちに重大な支障を及ぼすことはなかった。しかし、その影響で本邦の経済・政治などが混迷したため、今後本学の事

平成23年度事業報告と決算について

業活動に如何なる影響を与えるか、その動向を十分注視しなければならないことを念頭に置いて、今期の活動を終えることとなった。学校法人大阪医科大学の平成23年度事業概要の中で、教育・研究・診療に関する通常の経常的な事業は滞りなく進んだことをご報告申し上げる。

2 財務の概況（平成23年度決算の概要）

(1) 資金収支計算

「資金収支計算書」は、学校法人の当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入支出の内容を明らかにし、且つ支払資金の収入支出の顛末を明らかにするものである。

資金収入合計額は36,466百万円となり、前期比707百万円減少した。これは医療収入及び学生生徒等納付金収入は増加したが、その他の収入科目の設備拡充資金引当資産について純額処理としたため繰入収入が1,450百万円減少したことによる。

資金支出は、主に人件費支出、借入金等返済支出が増加したが、管理経費支出及び設備拡充資金引当資産への繰入支出が減少したため前期比で707百万円の減少となった。また年度末が休日で支払が翌月に持ち越されたこともあり次年度繰越支払資金は1,418百万円と大幅な増加となった。

(2) 消費収支計算

「消費収支計算書」は当該会計年度における消費収支の均衡状態とその内容を明らかにし、学校法人の経営状況が健全であるかどうかを示すものである。いわゆる企業会計の損益計算書に該当するものである。

帰属収入は、学生生徒等納付金、補助金、医療収入等法人に帰属する負債とならない収入をさすが、今年度は予算比で308百万円、前期比で890百万円増加した。

まず、医療収入については、診療報酬のプラス改定と病院経営改善委員会を中心とする経営努力の相乗効果により、前期比で619百万円の増収となった。

学生生徒等納付金については、予算比で6百万円及ばなかったが、前期比では136百万円の増加となった。医学部及び看護学部の収容定員増加によるものである。

寄付金は予算比で123百万円増加したが実績額では特別寄附金が8百万円、現物寄附が8百万円減少し、対前期比3百万円減少となった。事業収入は受託事業収入が前期比40百万円減少したため、39百万円減少した。

消費支出は予算比で1,006百万円減少し、前期比では745百万円減少した。内訳は人件費が前期比で141百万円増加した。派遣職員をアルバイト職員とし直接雇用に切り替えたことが主な要因である。管理経費は、従来管理経費として計上していた附属病院の委託費の一部を教育研究経費としたため大幅に減少した。

資産処分差額の前期比大幅な差異は、前期に有価証券の評価差額を570百万円計上した反動で減少額が531百万円となっている。本年度はこれらの帰属収入から消費支出を差し引いた帰属収支差額は1,475百万円の黒字となった。

(3) 貸借対照表

資産総額は前期比で1,354百万円増加した。資産のうち建物が610百万円、その他の機器備品が96百万円減少し、他方教育研究機器備品が207百万円、図書が108百万円増加している。病院手術棟の建設を見据え設備拡充資金引当特定資産に250百万円を積み増した。現預金は、年度末が土曜日であるため、未払い金が939百万円増加した結果1,418百万円増加している。

平成23年度事業報告と決算について

平成23年度資金収支決算（予算対比及び決算対比）

単位：100万円

	勘定科目	23年度予算額 (A)	23年度決算額 (B)	増減 (A) - (B)	22年度決算額 (C)	増減 (B) - (C)
		収入	学生生徒等納付金収入	3,880	3,874	6
	手数料収入	174	212	-38	201	11
	寄付金収入	515	627	-112	623	4
	補助金収入	1,560	1,650	-90	1,567	83
	資産運用収入	223	223	0	199	24
	資産売却収入	10	12	-2	0	12
	事業収入	293	206	87	245	-39
	医療収入	23,574	23,507	67	22,888	619
	入院収入	16,947	17,125	-178	16,504	621
	外来収入	6,308	6,025	283	6,108	-83
	その他の医療収入	463	447	16	379	68
	保険等査定減	-144	-91	-53	-103	12
	雑収入	332	457	-125	466	-9
	借入金等収入	1,000	500	500	500	0
	前受金収入	2,275	2,573	-298	2,405	168
	その他の収入	4,074	4,097	-23	5,116	-1,019
	資金収入調整勘定	-5,965	-6,481	516	-6,062	-419
	前年度繰越支払資金	5,010	5,010	0	5,285	-275
	収入の部合計	36,957	36,466	491	37,173	-707

	勘定科目	23年度予算額 (A)	23年度決算額 (B)	増減 (A) - (B)	22年度決算額 (C)	増減 (B) - (C)
		支出	人件費支出	14,667	14,867	-200
	教員人件費支出	4,767	4,933	-166	4,866	67
	職員人件費支出	9,219	9,095	124	8,762	333
	退職金支出	541	706	-165	613	93
	教育研究経費支出	11,568	11,304	264	11,214	90
	医療材料費支出	7,329	6,987	342	7,063	-76
	管理経費支出	2,014	1,507	507	2,034	-527
	借入金等利息支出	73	75	-2	90	-15
	借入金等返済支出	1,239	1,738	-499	1,638	100
	施設関係支出	216	188	28	165	23
	設備関係支出	1,279	1,118	161	1,155	-37
	資産運用支出	104	332	-228	1,661	-1,329
	その他の支出	2,440	2,643	-203	2,394	249
	(予備費)	221		221		0
	資金支出調整勘定	-3,596	-3,734	138	-2,564	-1,170
	次年度繰越支払資金	6,732	6,428	304	5,010	1,418
	支出の部合計	36,957	36,466	491	37,173	-707

平成23年度消費収支決算（予算対比及び決算対比）

単位：100万円

	勘定科目	23年度予算額 (A)	23年度決算額 (B)	増減 (A) - (B)	22年度決算額 (C)	増減 (B) - (C)
		収入	学生生徒等納付金	3,880	3,874	6
	手数料	174	212	-38	201	11
	寄付金	525	648	-123	651	-3
	補助金	1,560	1,650	-90	1,567	83
	資産運用収入	223	223	0	199	24
	資産売却差額	0	1	-1	0	1
	事業収入	293	206	87	245	-39
	医療収入	23,574	23,507	67	22,888	619
	入院収入	16,947	17,125	-178	16,504	621
	外来収入	6,308	6,025	283	6,108	-83
	その他の医療収入	463	447	16	379	68
	保険等査定減	-144	-91	-53	-103	12
	雑収入	332	550	-218	491	59
	帰属収入の部合計 【A】	30,563	30,871	-308	29,981	890
	基本金組入額 (▲)	-1,401	-1,173	-228	-1,150	-23
	消費収入の部合計 【B】	29,162	29,698	-536	28,831	867

	勘定科目	23年度予算額 (A)	23年度決算額 (B)	増減 (A) - (B)	22年度決算額 (C)	増減 (B) - (C)
		支出	人件費	14,713	14,636	77
	教員人件費	4,767	4,933	-166	4,866	67
	職員人件費	9,219	9,095	124	8,762	333
	退職給与引当金繰入	587	474	113	730	-256
	退職年金	97	93	4	97	-4
	教育研究経費	13,127	12,830	297	12,775	55
	医療材料費	7,329	6,970	359	7,058	-88
	管理経費	2,145	1,793	352	2,193	-400
	借入金等利息	73	75	-2	90	-15
	資産処分差額	51	55	-4	586	-531
	徴収不能引当金繰入額	17	6	11	3	3
	(予備費)	277		277		0
	消費支出の部合計 【C】	30,402	29,396	1,006	30,141	-745

帰属収支差額 【A - C】	161	1,475	-1,314	-160	1,635
消費収支差額 【B - C】	-1,241	301	-1,542	-1,310	1,611

※十万単位を四捨五入しているため合計と一致しない場合があります。

■海外春期短期研修生の学習レポートについて

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

本学では国際交流推進の一環として、医学部学生・教員の海外研修を積極的に行っています。タイ・マヒドン大学シリラート病院での研修（平成24年3月12日～4月6日）に参加した黒田実紗子さんに感想を述べていただきました。



■Mahidol University Siriraj Hospital, Bangkokでの学習レポート

6年生 黒田 実紗子

私が初めて海外での病院実習に興味を抱いたのは、2年生の頃でした。もともと、幼稚園の頃にカナダ人の英語の先生と家族ぐるみのおつきあいをしてきたことや、中学の頃に英語学習のためにした2回の短期留学や家族と毎年行く海外旅行などのおかげで海外には興味があったのですが、大学であった留学説明会に参加した際に、当プログラムの1回目の派遣報告があり、日本と異なった医療に触れた先輩の経験談を聞いて、“ぜひ自分もこのプログラムに参加したい”と思いました。



5年生のMahidol University Siriraj Hospitalでの留学をより充実したものにするために、留学前の準備を何かしたいと思ったのですが、勉強が苦手な私は3年生の時にイギリスレスター大学での医学英語勉強プログラムに参加しました。レスター大学での留学では医学英語を学ぶだけでなく、英語での軽い問診の取り方、イギリスでの医療現場の見学などができました。ただ本で学ぶだけでなく実際に海外の医療現場をみて、その経験をもとにした学習をしたことによって、生きた知識が身についたような感覚があって、海外での医療研修に対する思いがさらにつりました。

今回の実習は2週間ずつ2診療科、計4週間という事だったので私は産婦人科とTrauma Surgeryを選択しました。

タイでは、卒業後すぐに3年間、地方で働くことになっているらしく、5・6年生が日本の研修医と同じような働きをしていました。専門外来以外は学生が問診をとり身体診察をして治療方針を決定してDrにコンサルする体制をとっていました。日本の臨床実習とは大きく異なっており、自分の勉強不足をまじまじと感じさせられました。学生をはじめスタッフが優しく説明をしてくれて日本のクリクラではしたことの無い手技をたくさんさせてもらえました。

産科では、20ほどある分娩台で常時10人ほどの妊婦さんが待機しており、それを2人ほどのレジデントと看護師と7人ほどの学生で管理していて、6年生の学生は大きなリスクのない経膈分娩なら1人で管理できるほどの技術と知識を身につけていることに特に驚きました。分娩・妊娠・避妊に対する考え方も日本でのものと大きく異なっており、日本国内の常識と海外での常識の違いを身にしみて感じました。

婦人科では偶然がかさなり様々な体験ができました。APAGE Workshop 2012 DIE (Deeply Infiltrating Endometriosis) がシリラート病院で開催されていたので、婦人科手術で高名な倉敷成人病センター副院長の安藤正明先生のライブopeに入らせてもらえたり、遺体を使ってのope lectureの見学をさせてもらえたりしました。かねてから婦人科志望で腹腔鏡下でのopeに興味がある私は、安藤先生の無駄な動きのないopeを解説つきで見ることができ大層感銘を受けました。また、別の日にはSiriraj Hospitalの

Dr.のご好意でThai-German Multidisciplinary Endoscopic Training Centerでtutorialして頂いたのですが、シュミレーターを使った腹腔鏡下opeの練習をさせてもらっただけでなく、日本ではできないご遺体での練習という本当に貴重な経験もさせて頂きました。

Trauma Surgeryでは次々に来るバイク事故の症例だけでなくCat Bite、Snake Bite、銃創などの日本では見たことのない症例もたくさん見る事ができました。こちらでも学生主体で診察・処置を行っており、消毒やdressing、縫合などの処置をさせて頂きました。Trauma Surgeryではいろいろ外科手技をさせて頂ける機会があるという話を聞いていたので日本にいる間にシュミレーターを用いての縫合練習もしていたのですが、やはり覚醒状態の患者さんにする初めての処置は大変緊張しました。日中の外来だけでなくNight Shiftも体験し、夜間ならではの経験ができたのも心に残っています。

また、Mahidol大学滞在中には予定になかった様々な経験もすることができました。APAIE (The Asia-Pacific Association for International Education) 2012では、他国での医学教育の現状を垣間見、SIMIC (The Annual International Competition in Microbiology, Immunology and Parasitology) という学生主体で行われる大会の見学では、アジア各国の医学生生の知識の深さを見て衝撃を受け、日本で漫然と学習していたことに恥ずかしささえ覚えました。又、感染症で有名なTropical Medicineの見学の許可が下りて、日本では見ることができない熱帯特有の感染症や感染予防策に関する話を聞くこともできました。

Siriraj Hospitalには他の欧米諸国からの学生も臨床実習に来ており、お互いの国の医学をはじめ様々なことについて彼らと語り合ったことで、タイ以外の他国での医療への興味もかき立てられました。

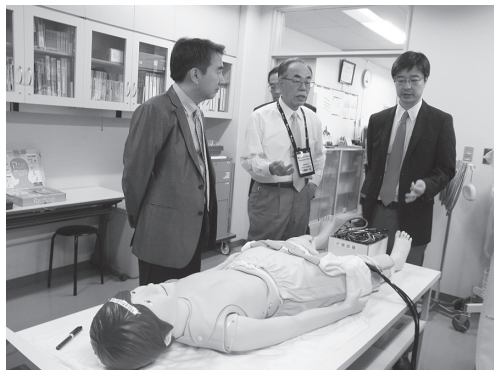
研修中の4週間、1日1日が充実しており、本当にあっという間でした。毎日多くの医学生や先生方がよりよい実習を受けられるよう尽力して下さり、タイでの医療を学ぶだけでなく文化・考え方を知ることができたり、タイの人々の優しさに触れることができました。また、タイで臨床実習をし、日本国外での医療に触れ、外国の医療人と話をすることで、“日本の医療で常識とされていること”が全てなのではなく世界には様々な“常識”があるのだと感じ、改めて自分の医療についての考え方を見つめ直せた気がします。このMahidol University Siriraj Hospitalでの臨床実習に参加できて本当に幸運でした。

今回の経験を生かし、もっと勉強をして知識を深め、また機会があれば必ず日本国外での医療現場に行きたいと思いました。

■ソウル大学医学部代表団の本学訪問について

メディカルトレーニングサポートセンター 専門教授 近藤 敬一郎

5月28日、ソウル大学医学部の医学教育担当副学部長 Kim Yon-Su 教授、学生部担当副学部長 Choi Min-Ho 教授、企画担当副学部長 Bahk Jae-Hyon 教授、国際交流担当副学部長 Kim Han Suk 副教授の4名が本学を来訪し、メディカルトレーニングサポートセンターを見学されました。Kim Han Suk 副教授は



本学を卒業し、一時本学小児科に勤務されておられました。その彼が2011年1月にソウル大学の学生60名を引率して本学を来訪され、その時に当センターの充実ぶりを高く評価され、再来日となったものです。ソウル大学医学部ではシミュレーションセンターを近々に新設するとのことで、訪問者はセンター運営面でのノウハウや、留意点も含め活発な質問をされておられました。今回の見学団には必死さすら感じましたので、凡そ1時間余の大半を具体的な質疑応答に当てることになり、多いに参考になった事と思います。

医学会春季学術講演会 学内行事

平成24年度 医学会春季学術講演会

日 時：平成24年 6月13日（水）16：00～18：00

場 所：臨床第一講堂

[特別講演]

『最先端の咀嚼機能回復術

—歯槽骨再生医療と歯科インプラント—』

大阪医科大学 口腔外科学教室

教授 植野 高章



[特別講演]

『最新の消化器外科手術

—肝臓に対する肝切除術の進歩—』

大阪医科大学 一般・消化器外科学教室

教授 内山 和久



研究奨励賞受賞者表彰

衛生学・公衆衛生学教室

谷本 芳美 先生

内科学Ⅱ教室

朝井 章 先生



学長室にて：

前列左から

内山教授、竹中学長、

植野教授

後列左から

河田教授、池田教授

生前献体者文部科学大臣感謝状伝達式

ご遺骨返納法要

生前献体者に対する文部科学大臣からの感謝状伝達式が5月23日（水）午後1時から第2会議室において挙行されました。

また、これに引き続き、ご遺骨返納法要が午後2時から光松寺（本学菩提寺）において、ご遺族の方々をお迎えし、竹中学長、大槻解剖学教授、解剖学教室教職員および医学部学生の参列のもとに厳かに執り行われました。式典は光松寺霊群住職の読経に始まり、40位の御霊位と献体に深いご理解をいただきましたご遺族に対して、大槻教授、学生代表が祭文を奉読し感謝の意を表しました。更に読経の中、代表焼香に続いて参列者全員が焼香を行った後、竹中学長から感謝状を伝達し、学生からご遺族の手にご遺骨をお返し法要を終了致しました。



新入生歓迎会

新入生歓迎会が学友会主催で6月2日(土)さわらぎキャンパス体育館及び本部キャンパス文化部クラブハウス前中庭にて開催されました。

さわらぎ体育館では学生参加のフットサル大会が行われました。(10:00~16:00) 引続き夕方、本部キャンパス文化部クラブハウス前にて、竹中学長、花房教育機構長、荒木看護学部学生生活支援センター長の鏡割りが行われ、クラブ参加(運動部・文化部)の模擬店・学生イベント等があり、大勢の医学部・看護学部学生等にぎわいをみせました。



さつき会(献体登録者)総会



生前委託者(献体登録者)の総会(さつき会)が5月10日(木)午後2時から、本学の臨床第一講堂にて開催されました。

総会当日は、さつき会会員約230名の出席を賜り、平成23年度成願者の御霊への黙祷を捧げたのち、花房教育機構長・岡村さつき会会長の挨拶、平成23年度篤志献体活動報告、霊群住職の講話、口腔外科学教室・植野教授の「いつまでも美味しい食事を口から」と題した特別講演が行われ、午後3時30分に閉会いたしました。

個人情報保護に関する特別講演会



日時：平成24年5月18日(金) 17:00~

場所：臨床第一講堂

演題：「個人情報保護法が施行されて7年が経過して
—医療機関が今後とも留意すべき点について—」

演者：井上 清成 弁護士(井上法律事務所 所長)

著書：「病院法務部奮闘日誌」日本医事新報掲載
「医療の法律処方箋」MMJ(毎日医学ジャーナル)
掲載等あり

高槻まつりに参加しました



平成24年8月4日(土)・5日(日)に開催されました第43回市民フェスタ 高槻まつりに今年も“大阪医大連”として参加いたしました。



健康科学クリニック主催 第5回「市民健康フォーラム」

日 時：平成24年5月12日（土）14：00～

場 所：看護学部 講堂

テーマ：「最新医学を知ればもっと幸せになれる」

演 題：向坂 直哉 医師（診療部門長・内科）

「肺の健康を医学する

—いつまでも美味しい空気を吸いたい—

後山 尚久 医師（健康科学クリニック所長・婦人科）

「人間ドックの意味と健康寿命

—がん検診は受けるべきか否か—



■歴史資料館からのお知らせ

大阪医科大学歴史資料館開館5周年記念（-創立85周年の節目に-）に、下記の通り開催しました。

【ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展in高槻】

期 間：平成24年6月1日（金・創立記念日）～6月10日（日）

会 場：大阪医科大学歴史資料館

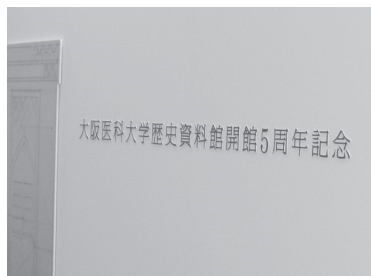
開館時間：午前9時30分～午後4時

休 館 日：開催期間中休館日はなし

入 場 料：無料

後 援：高槻市

来 館 者：合計 約2,620名



■歴史資料館市民講座

第6回歴史資料館市民講座が、下記の通り開催されました。

日 時：平成24年7月7日（土）14：00～15：00

場 所：別館3階 講義室

演 題：脳神経外科の現在・過去・未来

講 師：本学附属病院院長（前図書館長）

黒岩 敏彦

共 催：高槻市

参加者：83名



平成24年度 市民公開講座

■第2回

平成24年5月19日（土）14時～ 臨床第一講堂

『関節の痛む病気と関節リウマチの新しい治療』
内科学 I 診療准教授 横野 茂樹

『最近のリウマチ薬との付き合い方』
附属病院薬剤部 島本 玲奈

『関節リウマチと日常生活』
リウマチケア看護師 橋口 宮子



■第3回

平成24年6月16日（土）14時～ 臨床第一講堂

『アトピー性皮膚炎のストレスをふっとばせ!』
皮膚科学 准教授 上田英一郎

『夏場に注意したいお薬の話(光線過敏症について)』
附属病院薬剤部 富田 真由

『Let's ストレスマネジメント』
リエゾン精神看護専門看護師 宮田 郁



平成24年度 市民公開講座 開催予定

回	開催日	演 題	担当	薬剤部演題	講演薬剤師
				看護部演題	講演看護師
第4回	9月15日(土)	「1歳までの知っておきたい乳幼児期の成長発達」	周産期センター 助教 大植慎也	授乳中に気をつけたいお薬の話	鈴木典子
				乳児の発達をはぐくむ育児支援	森田美千代
第5回	11月17日(土)	「腰部脊柱管狭窄症～腰下肢の痛み、しびれで長く歩けない～」	整形外科科学教室 教授 根尾昌志	骨を丈夫にするお薬と仲良くする方法	窪田理沙
				演題未定	演者未定
第6回	12月15日(土)	「肝癌の治療」	一般・消化器外科学教室 教授 内山和久	肝臓がんのお薬との付き合い方	花房加奈恵
				肝臓がん手術後に日常生活で気をつけたいこと	坂田愛美
第7回	平成25年 1月19日(土)	「噛める喜びを可能にする最新技術-歯科インプラント治療-」	歯科口腔外科学教室 教授 植野高章	感染症の予防はお口のケアから(口腔ケアのお薬について)	早坂大
				おいしく食べ続けるために	檀上明美

平成24年度 高槻市大学交流センター事業『市民講座』開催予定

開催場所：高槻市総合市民交流センター7階・第6会議室

開催日時	所 属	講 演 者
平成24年10月4日 16:30～18:00	大学院医学研究科	教授 吉田龍太郎
平成24年10月11日 16:30～18:00	微生物学教室	准教授 中野 隆史
平成24年10月18日 16:30～18:00	医療安全対策室	室長 村尾 仁

寄付金報告

*** ご寄付のお願い ***

大阪医科大学では、大阪医科大学基金および教育環境整備事業など各種事業への募金活動を行っています。皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

なお、大阪医科大学に対する寄付金は、税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

個人から本学へのご寄付は、平成23年度税制改正により、既存の「所得控除」に加え、寄付者の選択により新たに「税額控除」の適用を受けられるようになりました。寄付金の約40%（ただし、所得税の25%が限度）が所得税額から控除されます。

また、法人から本学へのご寄付は、一般の寄付金の損金算入限度額と別枠で損金算入することができますし、あるいは「受配者指定寄付金」として寄付金全額が損金に算入できます。

■ 大阪医科大学基金へのご寄付

<寄付金申込者>

平成24年4月3日から平成24年7月6日までの間の寄付金入金件数は16件、金額は2,500,000円です。ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成24年7月6日までの間の寄付金入金件数は414件、金額は54,888,000円です。
(順不同・敬称略)

株式会社三島コーポレーション 丸安青果株式会社 浅海電気株式会社
株式会社関西ローマテリアル 医療法人毅峰会吉田病院 有限会社すばる印刷 株式会社トーション
田中 清子 田中 和子 田中 陽子 清金 公裕 神谷 健司 吉永 尚子 河内 明
岡田 仁克 匿名1件

※毎年継続してご寄付（口座自動振替etc.）いただける申し込みは、「大阪医科大学基金（通称・フレンズ基金）」で承っております。何卒ご支援賜りますようお願い申し上げます。

■ 附属病院の整備事業募金へのご寄付

<寄付金申込者>

平成24年4月1日から平成24年7月6日までの間の寄付金入金件数は4件、金額は2,250,000円です。ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成24年7月6日までの寄付金入金件数は102件、金額は20,670,000円です。
(順不同・敬称略)

須賀工業株式会社大阪支社
大東 清四 天津 孝 匿名1件

■ 教育環境整備事業募金へのご寄付

<寄付金申込者>

平成24年4月1日から平成24年7月6日までの間の寄付金入金件数は19件、金額は28,730,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

(順不同・敬称略)

医療法人淳和会

大西 用子 辻野 元博 室井 正彦 嶋村 俊一 神谷敬一郎 鈴木功司郎 匿名12件

■ 募集中の募金の種類

- 教育環境整備事業募金
- 大阪医科大学基金への募金
- 附属病院の整備事業募金
- 別館講堂「机募金」
- 「別館」・「歴史資料館」維持事業募金

※ 各募金につきましては、本学ホームページ (<http://www.osaka-med.ac.jp/>) の「ご支援のお願い」からお入りください。

■ ご支援をお考えの皆様へ

ご寄付のお手続き方法

1. 大阪医科大学ホームページよりダウンロードした寄付申込書にご記入のうえ、FAXまたはご郵送ください。

- ご郵送先：569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号
- FAX：072-681-3723

2. お近くの金融機関より下記口座にお振り込みをお願いします。

口座名義	学校法人大阪医科大学(募金口)
振込先	三井住友銀行 高槻支店
口座番号	普通預金 2161078

※本学所定の振込用紙をご利用して三井住友銀行の本支店でお振込みされた場合は、お振込手数料は無料です。振込用紙は募金推進本部までご請求ください。

3. ご入金の確認ができ次第、領収書とお礼状をお送りいたします。

(備考) 寄付申込書のダウンロードは、本学ホームページ (<http://www.osaka-med.ac.jp/>) の「ご支援のお願い」から、お入り下さい。

寄付金に関する
お問合せ

学校法人大阪医科大学 募金推進本部
〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号
TEL:072-684-7243(直通) FAX:072-681-3723
E-mail:kikin@art.osaka-med.ac.jp

受付時間／平日9：00～16:30

研究助成金等について

研究助成金等について

■2012年4月助成「がん研究助成」[公益財団法人大阪コミュニティ財団]

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
進行性前立腺癌の治療のための細胞ストレスの研究	稲元 輝生(泌尿器科学・助教)	100万円

■平成24年度研究助成〔公益財団法人JR西日本あんしん社会財団〕

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
事故による外傷性脊髄損傷患者の生活習慣病の発症予防に関する研究	佐浦 隆一 (リハビリテーション医学・教授)	200万円

■平成24年度腎疾患研究助成金〔公益財団法人大阪腎臓バンク〕

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
Dent病における、CLC-5異常とCa ²⁺ 輸送障害との関係	白岩 有桂(生理学・助教)	50万円

○研究協力課から処理(申請・機関承認等)しました公募助成金他のうち、内定・採択を確認できたものを掲載しています。研究協力課へ掲載依頼のため情報提供下さったものを含めています。

お詫びと訂正

学報 第92号に掲載分、研究助成金等について、の神吉佐智子先生欄に、研究課題名と職名欄部分において誤りがございました。

お詫びを申し上げますとともに、訂正をさせていただきます。

・研究課題名

誤) : exendin-4 が脳心筋炎ウイルス感染後β細胞のケモカイン発現に与える影響の解析
 正) : ファージディスプレイ法で同定したホーミングペプチドを用いる心臓虚血域を標的とした新規治療法の開発

・職名

誤) : 助教(准)
 正) : 助教

《厚生労働科学研究費補助金》

■研究代表者

(単位:千円)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	継続	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
初発膠芽腫に対する新規放射線化学療法による有効治療法確立のための臨床研究	宮武 伸一 (脳神経外科学・特任教授)	*	17,600	17,600	6,600			
症候性脳放射線壊死に対する核医学的診断とベバシズマブの静脈内投与による治療	宮武 伸一 (脳神経外科学・特任教授)			21,100	14,000	9,900		

■平成24年度農林水産省農林水産技術会議事務局委託事業(タンニン類コンソーシアム)

[研究課題番号順]

(単位:千円)

研究課題名	研究開発責任者	研究実施責任者	金額
農林水産物・食品の機能性等を解析・評価するための基盤技術の開発	(独)農業・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所	学長 竹中 洋	10,000千円



訃報

本学元学長で名誉教授（法医学）の松本秀雄先生（87歳）が
去る平成24年7月1日（日）に逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



主要会議報告

■主要会議とその主な議題(平成24年5月～7月)

【理事会】

[平成24年5月8日]

—審議事項—

1. 学校法人大阪医科大学理事会内人事委員会規程の制定について
2. 学校法人大阪医科大学就業規則の一部改正について
3. 学校法人大阪医科大学物流センター規程の一部改正について
4. 看護専門学校閉校に伴う基本規程の一部改正について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告について
2. 日本私立医科大学協会報告
3. 附属病院全体建築将来構想について
4. 学事関係報告
5. 病院関係報告
6. 事務組織について
7. 予防医学研究機構(予定)を設置するためのシステム導入の仮契約について
8. ヴォーリズ展について

[平成24年5月26日]その1

—審議事項—

1. 平成23年度決算案承認について
2. 平成23年度事業報告承認について
3. 教授の選任について
4. 学校法人大阪医科大学理事会内人事委員会規程の制定について
5. 学校法人大阪医科大学事務組織並びに事務分掌規程の一部改正について
6. 宿日直時の実働時間に対する時間外手当の支給について

—報告事項—

1. 日本私立医科大学協会報告
2. 平成24年度 学校法人大阪医科大学法人運営体制
3. 新棟建設についての報告事項
4. 西キャンパス南東角地土地について
5. 学校法人大阪医科大学歴史資料館事業報告
6. 今夏の節電について
7. 救急医学教室の教授選考について

[平成24年5月26日]その2

—審議事項—

1. 平成23年度決算案承認について
2. 平成23年度事業報告承認について

[平成24年6月12日]

—審議事項—

1. 組織変更に伴う基本規程の一部改正について
- #### —報告事項—

1. 担当理事運営会議報告について
2. 「物品購入及び施設改修等に関する査定要領」について
3. 病院経営改善委員会報告
4. 組織の位置付け・呼称変更について
5. 中央手術棟建設計画にかかる、プロポーザル方式による設計事務所選定について
6. 日本私立大学連盟報告
7. LDセンター報告
8. 健康科学クリニック報告
9. 病院関係報告
10. 第7回全体集会開催について
11. 夏期賞与について

[平成24年7月10日]

—審議事項—

1. 理事の選任について

—協議事項—

1. 大阪医科大学特定医療従事条件付奨学金規程について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告について
2. 日本私立医科大学協会報告について
3. 全体病院建築に関する設計会社へのプロポーザル資料について
4. 大阪薬科大学との法人合併の進捗状況について
5. 未来経営戦略推進経費採択事業への申請について
6. 学事関係報告
7. 病院関係報告
8. 大阪医科大学創立90周年記念事業について
9. 「ヴォーリズ展」について
10. 職員代表との36協定について

11. 大学認証に係る補助金返還について
12. 大学院新研究科設置について

【評議員会】

〔平成24年5月26日〕

—審議事項—

1. 議長の選出について

—報告事項—

1. 平成23年度決算報告について
2. 平成23年度事業報告について
3. 宿日直時の実働時間に対する時間外手当の支給について
4. 学事関係報告
5. 病院関係報告
6. その他

【医学部教授会】

〔平成24年5月16日〕

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 生命科学講座生化学教室担当教授の選考について
3. 生体管理再建医学講座救急医学教室担当教授の選考について
4. 第1学年(他大学卒業)の単位認定について
5. その他

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育機構長報告
4. 中山国際医学医療交流センター長報告
5. 倫理委員長報告
6. その他

〔平成24年6月20日〕

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 生命科学講座生化学教室担当教授の選考について
3. 生体管理再建医学講座救急医学教室担当教授の選考について
4. 学部学生からの復学願い出について
5. 大阪医科大学特定医療従事条件付奨学金規程の一部改正および同募集要項について
6. 平成24年度奨学生推薦一覧(案)について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 教育機構長報告
3. その他

〔平成24年7月18日〕

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 中山国際医学医療交流センター長及び教育機構長の交代について
3. 生命科学講座生化学教室担当教授の選考について
4. 生体管理再建医学講座救急医学教室担当教授の選考について
5. 大阪医科大学特定生物安全管理委員会規程の一部改正について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育機構長報告
4. 中山国際医学医療交流センター長報告
5. 倫理委員長報告
6. 特定生物安全管理委員長報告

【医学研究科教授会】

〔平成24年5月2日〕

—審議事項—

1. 専攻授業科目変更について
2. 平成24年度 指導教員一覧について
3. 平成24年度 ティーチング・アシスタント及びリサーチ・アシスタントの任用について
4. 大阪医科大学産官学連携共同研究取扱規程(案)について
5. 大阪医科大学産官学受託研究取扱規程(案)について

—報告事項—

1. 在学生及び学位未取得者へのアンケート実施について
2. 平成10年度から平成20年度の大学院生の学位取得状況について
3. 公益財団法人黒住医学研究振興財団「研究助成」募集について
4. 公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団「平成24年度岸本基金研究助成」募集について
5. 平成24年度第1回 学位審査発表会の開催に

主要会議報告

ついて

6. がんプロフェッショナル養成プラン成果報告書について
7. 「医学部・大学病院の教育・研究活性化及び地域・へき地医療支援人材の確保」に関する計画書の提出(2次募集)について

[平成24年6月6日]

—審議事項—

1. 大学院語学試験委員の選出について(教授4名選出)
2. 平成24年度ティーチング・アシスタントの追加上申等について
3. 学外研修許可願について
4. 平成24年度第1回学位論文審査について
5. 課題募集型研究プロジェクト結果について
6. 大阪医科大学産官学連携共同研究取扱規程(案)及び大阪医科大学産官学連携受託研究取扱規程(案)について

—報告事項—

1. がんプロフェッショナル養成事業推進プランについて
2. 公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団「がん免疫療法の新展開」について
3. 「水質汚濁防止法および女性労働基準規則の一部改正」に伴う調査協力をお願い
4. 生命科学講座生化学教室担当教授選考委員会委員の変更について
5. その他

[平成24年7月4日]

—審議事項—

1. 平成24年度 第1回 学位論文審査可(合)否決定について
2. 平成24年度 第2回 学位論文審査日程について
3. 平成24年度 ティーチング・アシスタントの追加上申について
4. 平成25年度 大学院入学試験日程について
5. 新研究科設置準備について

—報告事項—

1. 大学院アンケート結果について
2. 平成24年度 第1回 学位記授与式について
3. 平成24年度 第1回 臨床研究教育研修会について

4. 平成24年度小野医学研究助成・研究奨励助成募集について
5. 平成24年度(第8回)鉤奨学基金給付者の決定について
6. 今夏の節電対策について
7. 第12回国際交流シンポジウムの開催について
8. その他

【大学協議会】

[平成24年5月28日]

—協議事項—

1. 大阪医科大学倫理委員会規程について
2. 大阪医科大学研究に関する利益相反マネジメント規程について
3. 平成24年4月～平成25年3月大学協議会開催予定の変更について
4. 新研究科設置準備室の設置について

[平成24年6月25日]

—協議事項—

1. 平成24年夏の節電対策について
2. 今後の大学協議会の開催時間について
3. 平成24年度大学協議会の署名委員について
4. 新研究科設置準備室の設置について
5. その他

[平成24年7月23日]

—協議事項—

1. 助産師国家試験受験資格希望者の選考について
2. 看護学部PA会総会の開催について
3. 外部研究資金開発企画課のあらましについて

【看護学部教授会】

[平成24年5月9日]

—審議事項—

1. 既修得単位の認定について
2. 大阪医科大学看護学部給付奨学金候補者の決定について
3. 実習調整委員会内規(案)について
4. 国際交流推進委員会内規(修正案)について
5. 就職支援委員会内規(案)について
6. 学生への就職活動に関するアンケート(案)について
7. 看護学部教育の特徴について

8. 看護研究セミナーにおける後援依頼について
 9. 倫理委員会について
- 報告事項—

1. 平成24年度「研究費支出基準表」について
2. 研究助成金について
3. 大学協議会報告
4. 各種センター報告
 - 1) 学生生活支援センター報告
 - 2) 教育センター報告
 - 3) 看護実践研究センター報告
 - 4) 実習調整委員会報告
 - 5) 国際交流推進委員会報告
5. その他
 - 1) JANS33について

〔平成24年6月13日〕

—審議事項—

1. 大阪医科大学看護学部給付奨学金候補者の決定について
2. 新研究科設置準備室看護学部WGメンバー選出について
3. 大阪医科大学倫理委員会規程の見直しについて
4. 大阪医科大学研究に関する利益相反マネジメント規程の見直しについて
5. 備品管理委員会内規(案)について
6. 大阪医科大学産官学受託研究取扱規程の変更について
7. 大阪医科大学産官学連携共同研究取扱規程の変更について
8. 図書経費について
9. 設置経費について
10. 教育の特徴について
11. 意見箱の設置について
12. 本学附属病院就職説明会及び学外施設による就職合同ガイダンスについて
13. 海外出張について
14. 在宅看護学領域の人事について

—報告事項—

1. 入試実務員会報告
2. 大学安全対策委員会報告
3. 保健師教育機関協議会について
4. 学生への研究協力依頼に対する対応について
5. 大学協議会報告
6. 各種センター報告

- 1) 学生生活支援センター報告
 - 2) 教育センター報告
 - 3) 看護実践研究センター報告
 - 4) 実習調整委員会報告
 - 5) 国際交流推進委員会報告
 - 6) 就職支援委員会報告
7. その他
- 1) 看護学部棟改修工事工程表(案)について
 - 2) 節電対策の学長私案について
 - 3) 養護教諭2種免許申請について
 - 4) 教授懇親会について
 - 5) 看護実践研究センター担当職員について

〔平成24年7月11日〕

—審議事項—

1. 海外出張について
2. 非常勤実習補助員について
3. 看護学部棟改修工事に関わる各室部屋名称について
4. 総合実習の施設追加について
5. 助産師国家試験受験資格希望者の選考に関する申し合わせ事項について
6. 看護基本技術到達度チェックについて
7. 公開授業について
8. 授業評価について
9. 給付奨学金該当者の選出について

—報告事項—

1. 大学協議会報告
2. 予防医学研究機構設置準備委員会報告
3. 人権教育推進委員会報告
4. 自己点検評価委員会報告
5. セクシャルハラスメント等防止委員会報告
6. 図書館運営委員会報告
7. 市民公開講座運営委員会報告
8. 各種センター報告
 - 1) 学生生活支援センター報告
 - 2) 教育センター報告
 - 3) 看護実践研究センター報告
 - 4) 実習調整委員会報告
 - 5) 国際交流推進委員会報告
 - 6) 就職支援委員会報告
 - 7) ウェブサイト委員会報告
7. その他

大学安全対策室

■大学安全対策室からのお知らせ

大学安全対策室長 河野 公一

環境管理小委員会では、大学における廃棄物を適正に取り扱うために、分別表を作成しました。今後、廃棄物にかかる責任体制を明確化し、規程や手引きを作成する予定です。また、本学教職員等に廃棄物の分別を周知するため、平成24年6月26日、27日に説明会を開催しました。

薬品管理小委員会では、担当課より教室等に対する3件の対象化学物質保有調査の依頼がありました。その調査は、①「特定化学物質の環境への排出量の把握および管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）」に基づく制度に加えた「大阪府化学物質管理制度」に伴う報告のため、②「水質汚濁防止法」改正および③女性労働基準規則の一部改正に伴う対応検討のためのもので、平成24年5月および6月に実施しました。

平成24年7月20日～25日に対象教室に対して、化学物質等の保管状況を確認するために巡視を実施しました。調査および巡視の際は、関係者の方々には多大なるご協力いただき感謝申し上げます。

また、化学物質等に関する問合せ窓口を総務課から大学安全対策室に移管することにより、研究者の利便性を向上させました。

今後も本学教職員等の安全向上のため、対策を提言して参ります。

***実施した研修会のDVDや安全に関する書籍の貸出をいたしますのでご利用ください。**

【連絡先】 大学安全対策室（総合研究棟1階）内線3404、3405

E-mail sps000@art.osaka-med.ac.jp

URL www.osaka-med.ac.jp/deps/sps/index.html

（学内限定ですが、上記URLよりご意見をお寄せいただける入力フォームを用意しております。皆様のご意見をお待ちしております。）

大学安全対策委員会
化学物質等および廃棄物に関する大学側の問合せ窓口を総務課から大学安全対策室に移管
環境管理小委員会
「廃棄物分別表」の作成
「大阪医科大学廃棄物取扱規定（案）」「廃棄物取扱手引き」を作成中
薬品管理小委員会
「化学物質等管理取扱手引き」の改訂
PRTR法に基づく制度に加えた「大阪府化学物質管理制度」に伴う調査（平成24年5月）
「水質汚濁防止法」改正に伴う調査および女性労働基準規則の一部改正に伴う調査（平成24年6月）
化学物質等保管状況巡視確認の実施（平成24年7月20日～25日）
研修等
廃棄物取扱について説明会開催（平成24年6月26日、27日）

☞ 平成24年3月19日に東京大学大学院新領域創成科学研究科の大島義人教授による講演「誰のための安全か」は大変好評でした。

次回講演は平成24年10月9日に開催を予定しています。

■第32回 特別講演会

日 時：平成24年 6月28日（木）午後5時～6時30分

場 所：臨床第一講堂、臨床第二講堂

演 題：「医師・医療者のための日常診療からのコンフリクトマネジメント」

演 者：安城更生病院 医療安全部長・神経内科部長 安藤 哲朗 先生

出席者：652名

医療現場において、医療者と患者のコミュニケーションの齟齬がコンフリクト（衝突、対立、葛藤、紛争）を発生することが確認されている。

今回は安城更生病院 医療安全部長・神経内科部長を兼務されている、安藤哲朗先生をお招きして開催した。安藤先生は同院で院内医療メディエーターとして、コンフリクトマネジメントを実践されている先生であるとともに、医療コンフリクトマネジメントを論じる上で、中心的な存在の先生でもある。

樋口医療推進部部長の開会挨拶に続き、村尾医療安全対策室室長の司会により、特別講演会が進行していった。

講演内容を紹介すると、医療コンフリクトマネジメントの要点は「医療者が相手（苦しむ患者）への深い共感と公正な倫理観を持って協調的対話を続けること」であると言われた。それを実践するためのキーワードとして「本質主義と社会構成主義」、「コンフリクトの理解」、「Narrative-based medicine (NBM)」、「Just culture」、「Sorry works!」、「院内医療メディエーション」、「医療施設管理者が守るべきもの」の7点を挙げられた。そして、そのキーワード一つ一つに本当に丁寧に解説を付け加えていただき、今回の講演を拝聴して、医療者のあるべき姿が少しは鮮明になったと思われる。本音を言えばもっと多くの医師の出席が望まれた。

終了後アンケートを実施し、350名から回答を得たが、参加者全員から理解できたとの回答を得た。特に「共感・対話の重要性が理解できた」とか、「医療者側のナラティブと患者側のナラティブが微妙に違う事に気付いた」と言うような、新しい発見を多くの参加者がしたとおもわれる。

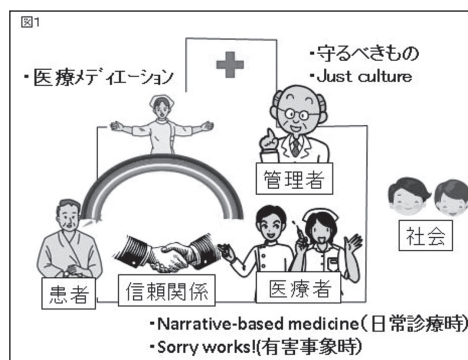
今回の講演を機に、改めて「ノンテクニカル・スキル」の重要性を再認識した。



安藤哲朗先生

図1の説明：医療コンフリクトマネジメントの全体像とキーワード

医療施設管理者に最も必要なのは、守るべきものが、患者、当事者の医療者、信頼関係、社会の4つであると認識していることと、Just cultureである。当事者の医療者に特に必要なのは、日常診療においてはNarrative-Based Medicine (NBM)、有害事象時においてはSorry works!の考え方である。信頼関係を構築するモデルとして医療メディエーションがある。



***** お知らせ *****

『医療に係る安全管理のための職員研修』（事例検討会・特別講演会等）の出席は、医療に係る全ての職員（常勤・非常勤・アルバイト・派遣・委託職員等も含む）が年2回以上出席し、安全に関する意識の向上等を図るものとされています。

研修会へご出席できない方については、DVDの貸し出しや医療安全対策室横研修室で随時DVDが視聴出来ますのでご利用下さい。（お問い合わせ：医療安全対策室 2号館5階 内線2990）

■第31回事例検討会

日時：平成24年5月23日（水）午後5時～6時15分

場所：臨床第一講堂、臨床第二講堂

演題：「転倒転落防止に関する医療改善委員会の取り組み」

演者：転倒転落防止に関する医療改善委員会委員

田中 一成（委員長：リハビリテーション科 医師）・神吉 佐智子（心臓血管外科 医師）

愛場 紗緒理（55病棟 看護師）・川野 涼（精神神経科 医師）

出席者：500名

医療現場において、転倒転落の防止および重症化を抑止することは永遠のテーマのようであり、各医療機関において検討されているが、これまでの報告の中で決定的なものは存在しない。本院において当医療改善委員会を発足し、活動をしてきたので報告する。各部門リスクマネージャー73名を含む医療従事者500名が出席した。

黒岩病院長の開会挨拶に続き、村尾医療安全対策室室長の司会により、事例検討会が進行した。

まず、司会の村尾先生から本院における転倒転落の現状と過去の重大事例報告があり、「転倒転落の防止に関する医療改善委員会」の発足の経緯が報告された。引き続き、田中委員長より転倒の運動学的定義や、その危険因子、防止策などについてのミニレクチャーがされた。

その後3つのワーキンググループ（以下「W.G.」という。）からの報告があった。

W.G.1からは神吉医師よりアセスメントツールの作成と運用についての検討報告があった。合計8病棟でデモ運用を実施し、その内容を再評価して本格運用を目指すとしている。本格運用の開始時期は未定ではあるが、なるべく早期の実施を目指している。

W.G.2では愛場看護師長から院内の様々な危険個所が写真や動画によって紹介され、院内環境の見直し・整備について報告があった。改めて気付いた場所も有り、会場からはどよめきも起こっていた。

W.G.3は川野医師より患者家族、職員の教育に関する検討として、現在作成中の数種の啓発ポスターが紹介され、今後の教育に関する活動計画が報告された。

終了後アンケートを実施し、303名から回答を得たが、92%の参加者から「理解できた」「まあ理解できた」の回答を得た。多くの意見・感想として「転倒予防についての意識が高まった」とか、「転倒に関する知識が増え、有益であった」、「医師、看護師、その他コメディカルの相互協力、検討の重要性を感じた」等々、多くの賛同意見が寄せられた。

■第10回感染対策特別講演会

平成24年6月7日、第10回の感染対策特別講演会（本年度1回目）を行いました。

今回は、関西医科大学 第一内科学教室 診療教授・関西医科大学附属病院 感染制御部 部長 宮良高維先生に、「事例でみる標準予防策・感染経路別予防策」という演題で御講演頂きました。

院内感染対策には、感染症の有無にかかわらず患者全員に適用する「標準予防策」と感染症のある患者に対して標準予防策に追加する「感染経路別予防策（接触・飛沫・空気感染予防策）」がありますが、結局は感染経路の遮断を目的とします。具体的な標準予防策としては（1）湿性生体物質（血液・粘膜・体液・尿・便）に手を触れたら手を



宮良高維先生

洗う、（2）湿性生体物質に触れそうなときは、手袋・マスク・エプロン・ゴーグルなどのバリアアプリケーションを行う、（3）注射針のリキャップ禁止、（4）咳エチケット、（5）腰椎穿刺時にサージカルマ

スク着用、(6) 安全な注射手技であり、感染対策の基本として最も重要なものです。

標準予防策等の院内感染対策が徹底されなかった場合に起こりうるもので最も重篤なものが菌血症であり、菌血症集積時の対応も、基本に準じた標準予防策（あるいは接触感染予防策）です。また、院内で起こりうる感染症で集団発症しやすく対応に苦慮する代表的疾患として、結核・インフルエンザ・ノロウイルスがありますが、それぞれの対応策について、詳細な事例を交えて解説下さいました。結核に関しては、入院前や術前の胸部X線を確認するシステムが重要であるとのことでした。インフルエンザに関しては、飛沫感染により感染が拡大しやすいため、インフルエンザ抗原検査の提出数・陽性検体数の集計を行うことと、院内でのインフルエンザ集積発生探知と予防内服の要否を決定するシステムが必要であるとのことでした。ノロウイルスに関してもインフルエンザ同様感染拡大・集団発生しやすいため、早期診断・早期治療・隔離システムが必要とのことでした。

以上のように、呼吸器感染症・感染対策分野の第一線での経験に基づいた非常にわかりやすく熱い内容となっております。まだ見ていらっしゃらない方は是非感染対策室に御連絡下さい（全職員に、感染対策講習会への参加が年2回必須となっております）。貸し出し用DVDを用意しております。ちなみに、今回の講演会の出席者は587名と大盛況でした。

■ 第4回大阪医科大学附属病院緩和ケア研修会 開催報告

緩和ケア委員会・緩和ケアチーム 桑門 心

当院は2009年4月より地域がん診療連携拠点病院に指定されており、三島圏域のがん診療に対する役割はますます大きくなっております。がん拠点病院の指定要項の中には多職種のカンファレンスやカンサーボードの設置が含まれチーム医療の重要性が認識されつつあり、がん医療の中でも患者・家族を全人的に捉える必要性が高い緩和ケアはそのチーム医療が特に力を発揮する分野であります。この研修会は、①緩和ケアの知識を習得する、②多職種によるチーム医療を学ぶ、という点を目的に2008年より院内の医師・看護師を対象として開催してきましたが、その後対象職種を拡大し本年度からは院外の医療者も対象として開催させて頂きました。参加職種は医師・看護師・薬剤師・理学療法士・医療事務で計26名（院内21名、院外5名）の参加者によって熱心なグループワークが行われました。アンケートでは「多職種の考えを知ることができ有意義であった。」という声が多く聞かれ充実した研修会になったようです。今後も三島圏域での緩和ケア・チーム医療を充実したものとするために、より多くの医療者に参加して頂けるような研修会を行っていきたいと思います。開催にあたっては、会場の事前準備を行って頂いた事務の皆さんをはじめ、多くの方々に多大なる協力をしていただきました。深く御礼を申し上げます。

＜グループワークの様子＞



緩和ケア研修会報告

1. 開催日時 平成24年6月30日(土) 13:00~18:00
2. 開催地 大阪医科大学 新講義実習棟 P302号室
3. テーマ 看取りの時期における緩和ケア
 - ・治療/ケアのゴールを話し合う(アドバンス・ケア・プランニング)
 - ・苦痛緩和のための鎮静

4. 運営組織

研修会主催責任者	黒岩敏彦
研修会主催者	樋口和秀
研修企画責任者	桑門 心
研修会協力者	川部伸一郎(川部医院) 岡本洋平 藤原俊介 高橋紀代 堤 淳 木下真也 上田育子 有田由美 長嶧美奈子 小林豊英 若林暁子 田所洋志
事務局	見邨洋子 今井英子 山口 愛 吉浦真澄

<集合写真>



5. 参加者 26名

職種	部署	参加者氏名
医師	北野外科・内科	北野 貴弘
	化学療法センター	紀 貴之
	呼吸器内科	三好 啓治
	産科・内分泌科、 婦人科・腫瘍科	中村 路彦
		小西 博巳
	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	西角 章
	麻酔科	出口 志保
	卒後臨床研修 センター	寺田 信一
		原 美紀
		太田 沙緒里
村山 結美 渡辺 圭子		

職種	部署	参加者氏名
看護師	今井クリニック	影山 美記子
	りょうクリニック	宇田 享子
	看護部(34病棟)	木村 幸子
		看護部(75病棟)
薬剤師	薬剤部	
		平 祥子
	スギ薬局	高橋 智恵子
歯科衛生士	歯科口腔外科	吉田 秀代
		坂本 裕子 真木 美幸
理学療法士	リハビリテー ションセンター	楞田 眞弘
		西口 只之
		原田 知佳
メディカル クラーク	りょうクリニック	柳下 照江

保健管理室からのお知らせ

■学生定期健康診断を終えて

4月～5月に医学部・看護学部学生、大学院生の平成24年度定期健康診断を実施しました。医学部学生と大学院学生の未受検者が数名いますが、看護学部学生については、全員が受検しました。

有所見者については学校医の判断に従い、再検あるいは受診の勧奨、保健指導を実施しています。特に尿酸値、脂質値での所見が目立ち、食事などを中心に保健指導を実施しました。

■特定業務従事者健診、特殊健診、長時間労働者健診について

平成24年度特定業務従事者健診、有機溶剤・特定化学物質健診を5月23日(水)～25日(金)に実施しました。1,173名が受検し、その内約45名について産業医の判断に従い、再検や受診勧奨を行いました。

■感染症対策事業

(1) 新入生、新入職員対象のQFT検査、及び新入職員の4種感染症抗体検査

新入生(医学部、看護学部、大学院)207名、及び新入職員(研修医含む)252名の合計459名を対象に、結核対策の一環としてQFT検査を実施しました。陽性・判定保留者には健康管理医や保健師が面談を行い、胸部X線、再検査などの対応を行いました。

また新入職員(研修医含む)を対象に4種感染症(麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎)の抗体検査を実施しました。抗体価が無かった教職員(低かったものも含む)には、ワクチン接種の勧奨を行いました。

(2) 肝炎抗体検査、及びB型肝炎ワクチン接種

肝炎抗体検査、及びB型肝炎ワクチン接種を以下のように実施しました。また今後、7月と12月にワクチン接種を予定しています。

①肝炎抗体検査

【実施時期】平成24年4月～5月

【場 所】総合研究棟1階 保健管理室

【受 検 者】学生、及び教職員2562名

②B型肝炎ワクチン接種1回目・追加ワクチン接種

【実施日時】平成24年6月7日(木)、8日(金) 15:30～16:30

【場 所】総合研究棟1階 保健管理室

【接 種 者】肝炎抗体検査結果が陰性だった学生・職員が897名、その内622名が接種しました。

平成24年度インフルエンザワクチン接種申込が始まります！

医学部・看護学部学生、及び医療従事者はインフルエンザに感染する可能性が高い集団であるとともに、患者様にインフルエンザを伝播する可能性が高い集団であることも十分認識する必要があります。予防の基本はワクチン接種です。流行時期前(11月頃)のワクチン接種が有効です。インフルエンザ予防のためワクチン接種されることを強くお勧めします。

インフルエンザワクチン接種の申込受付を9月中旬から開始致します。詳細は決まり次第ご案内致しますので、希望される方は申し込んで受けて下さい。

ワクチンの管理の問題上、申し込みされた方のみ準備しますのでご注意ください。

行事日程 俳句

■主な行事日程(平成24年9月～11月)

9月3日(月)	病院長・副院長会議	17日(水)	医学部教授会
5日(水)	診療科長会 医学部臨時教授会 医学研究科教授会	18日(木)	高槻市交流センター事業市民講座
11日(火)	理事会	20日(土)	解剖慰霊祭
12日(水)	看護学部教授会	22日(月)	大学協議会
15日(土)	平成24年度第4回市民公開講座	27日(土)	院内コンサート
19日(水)	医学部教授会	11月4日(日)	医学部入試説明会&入試対策ゼミ(第3回)
24日(月)	大学協議会	5日(月)	病院長・副院長会議
30日(日)	医学部入試説明会&入試対策ゼミ(第1回) 看護学部入試説明会&入試対策ゼミ	7日(水)	診療科長会 医学研究科教授会
10月1日(月)	病院長・副院長会議	11日(日)	看護学部推薦入学試験
3日(水)	診療科長会 医学研究科教授会	13日(火)	理事会
4日(木)	高槻市交流センター事業市民講座	14日(水)	看護学部教授会
9日(火)	理事会	16日(金)	看護学部(臨時)教授会 看護学部推薦入学試験合格発表
10日(水)	看護学部教授会	17日(土)	平成24年度第5回市民公開講座 実験動物慰霊祭
11日(木)	高槻市交流センター事業市民講座	21日(水)	医学部教授会
13日(土)	大学祭	26日(月)	大学協議会
14日(日)	医学部入試説明会&入試対策ゼミ(第2回)	30日(金)	防災訓練

◆大阪医科大学俳句会(五・六・七月)

梅雨空の一方にある縹色	山崎隆司
大阪の茂の中を退院す	同
をちこちの山藤風の日かな	中川一成
片蔭や小猿を膝に猿つかひ	同
角杯を高くかかぐるビールの国	吉田孝江
蝸牛捺印を待つ配達夫	同
ふる里や烏賊火に母の子守唄	飯塚久子
昼顔にやつと風紋地獄ぬけ	同
音もなく雨降つてをり若葉冷	宮脇芳美
大西日女に重き旅鞆	同
棕櫚の花物に動ぜぬ歳となり	寺田千代子
胸擦つて鳩餌を拾ふ暑さかな	同
玩具買ひ息子一家の帰省待つ	羽根美恵子
金魚田を真赤に染めて夕日墜つ	谷口文子
昼顔や料金不足の戻り文	同

第27回 27th Annual Meeting of Japan Society for Immunology of Reproduction
日本生殖免疫学会総会・学術集会



会期：2012年12月8日(土)・9日(日)

会長：大槻勝紀(大阪医科大学 医学部 教授 生命科学講座 解剖学教室)

会場：大阪医科大学

演題募集期間：2012年 6月19日(火)～8月18日(土)

詳しくは学術集会HPまで ▶ <http://seishokumeneki.kenkyuukai.jp/>

特別講演

若山 照彦 先生 (山梨大学 生命環境学部、理化学研究所 発生・科学総合研究センター)

「マンモスは再生するか？」

東 治人 先生 (大阪医科大学 医学部 泌尿器科)

「移植腎慢性機能不全の発症メカニズムとその治療:新規免疫寛容誘導法の開発に向けて」

【学会事務局】

大阪医科大学 医学部 生命科学講座 解剖学教室 担当 前村憲太郎・並田優美

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

TEL: 072-684-7197 FAX: 072-684-6511 E-mail: jsir27th@art.osaka-med.ac.jp

● 病院ボランティア活動のご紹介 ●

入院されている患者さまに季節を感じていただくために栄養部からは、月一回程度の行事食が出されています。行事食には毎回、回復を祈る言葉を添えたカードに季節感豊かな写真や折り紙を貼って提供されています。



平成23年5月から、そのカード作りのお手伝いを病院ボランティアである「ふれあい」メンバーがすることになりました。折り紙ボランティアとして、現在10名の方が参加されています。1回に必要な折り紙は約600個。お雛様など対になっている場合は1200個にもなります。とても細かく、時間のかかる作業ですが、出来上がったときの喜びや達成感はひとしおです。出来上がったカードが、少しでも患者さまや、ご家族の笑顔と元気につながりますよう一つひとつ丁寧に心をこめて作っています。

表紙絵：枇杷の実

花は仲冬、果実は仲夏の季語である

食用の甘い果実は幕末に中国から渡来した唐ビワである。古い書物には奈良時代から平安の時代にその存在が明らかにされている。もともと葉のほうに有名で、咳止め、去痰、下痢止めの煎じ薬として重宝にされ、また暑さを払う飲み物「枇杷葉湯」として夏の風物詩でもある

名誉教授 富士原 彰

個人情報の取扱いについて：

平成17年4月1日から個人情報保護法が施行されました。これに伴い本学では、学報の発送にかかる個人情報につきましては、個人情報保護法を遵守し、適切な管理を行っております。なお、収集・管理する個人情報につきましては、発送の目的以外に使用することはありません。学報に関する個人情報についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

大阪医科大学 総合企画部 学報編集担当係 電話 072-683-1221代
E-mail : gakuho@art.osaka-med.ac.jp

大阪医科大学学報 第93号

発行年月 平成24年8月

発行 学校法人 大阪医科大学

編集・発行 総合企画部

印刷 大日本印刷株式会社

大阪医科大学ホームページ

<http://www.osaka-med.ac.jp/>